～昨日の風 明日の風～

経営コンサルタント独白録

[第115回] 組織の防衛ライン

戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL https://sien.co.jp/）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。
また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

ようやくマスクの使用制限が緩和され、少しは社会に活気が戻ってきたような気がします。新幹線の駅や空港も人出が増えてきました。博多では韓国や欧米からの観光客の姿を良く目にします。さすがにコロナ以前には戻れませんが、少しは明るい兆しです。

回復基調の背後では

一方、社会経済は混乱が続いています。世界的な燃料高騰はエネルギー供給に支障をきたし、電気・ガスというインフラを直撃しています。世界的なサプライチェーンも混乱が収まらず原材料の高騰・不足は続いています。その上食糧不足が顕在化して、4月からは小麦の政府売渡価格も跳ね上がる予定です。

そうした複合要因から世界的にインフレが進み、国民生活と企業経営を圧迫しています。3月に入り、米国では2つの銀行が破綻し、スイスでは信用不安から世界的な銀行が最大7兆円に及ぶ政府支援を受けることになりました。金融関係者は2008年のリーマンショックのようなことはない、と強調していますがリーマンショックは最初の銀行破綻より6ヶ月目位から目立った影響が見え始めました。回復基調の影にはまだまだ油断できないものがあります。

3年間で失ったもの

3年に及ぶパンデミックは世界に影響を与えましたが、我々の足元にも大きな影を落としました。特に子供達へのダメージは深刻です。中学・高校入学から卒業まで、大学においても約3年間をマスク生活やリモート授業などでうまくコミュニケーションが取れない時間を過ごさなければなりませんでした。幼児達は自然と触れ合う機会を失い他人との関係性を学ぶことができませんでした。

そしてそれは企業組織においても同様です。本来適切な時期に行わなければならなかった研修や訓練が実施されず、必要なコミュニケーションが重ねることができず、共同体としてのネジが緩んでしまったように感じます。リアルな世界よりWebやSNSの情報に影響を受けて偏った言動が見え隠れしています。

朝礼の直前までスマホを覗き込む人たち、昼食時間は黙食、休憩所や喫煙所でも会話も交わさない。約3年に及ぶ厄災はそうした企業のさりげない日常にも影を落としています。

個人と組織の防衛ライン

大学時代、社会学の授業で「社会学とは個人と社会の関わりについて学ぶこと」と教えられました。そしてその社会とは「国際社会」「地域社会」「国家社会」「自治社会」と分類され、それらと「個人」を対比したものであるという枠組みを教えられました。

それに倣って企業と個人をプロットし直すとすれば「自治社会」の後ろに「組織」「個人」「家族」と書き加えれば、現在の【防衛ライン】がどこにあるかは明白です。パンデミックでもロシア、ウクライナ紛争でも国連はまともに機能せず、アジア諸国は助け合いのかけらも見せず、租税公課と社会保障費の国民負担率約47%を放置する日本国や自治体などあてにすることはできません。

今こそ叫ぶ時

LGBTQという性同一性障害の人権思想に基づいて、渋谷区では女性用トイレを廃止して男女共有トイレを設置しました。外国では性犯罪が頻発して廃止されたものが作られました。食糧不足に備えSDGs関連予算から昆虫食（コオロギパウダー）の開発に補助金がついています。歴史上何度も飢饉に襲われた日本ですがコオロギを食べたという記録はありません（イナゴは別）。いずれは子ども達の給食に強制的に入れるという話もあるようです。こうした現象は価値観の多様化と笑って済ますことはできないことです。

さて、今こそ組織に向かって叫ぶ時です。「所属する組織を守らなければ個人が守れない。個人を守らなければ家族を守れない」

時代変化をきちんと整理して新年度を迎えたいと思います。